

iNPH Now

idiopathic
Normal
Pressure
Hydrocephalus

「レポート」 2012 HYDROCEPHALUS KEYNOTE 水頭症研究の Next Step



2012年10月19～22日 ウェスティン都ホテル京都にて 国内外の最新知見めぐり熱論交わす

Congress President 石川 正恒 先生 (洛和会宇羽病院正常圧水頭症センター 所長)

昨年10月19～22日、ウェスティン都ホテル京都にて、The International Society for Hydrocephalus and Cerebrospinal Fluid Disorders (ISHCSF)の年次大会として4回目となる、国際会議Hydrocephalus 2012 Kyotoが開催された。日本がアジア初の開催国となった今回、欧米やアジア諸国を中心に全世界24か国から集まった参加者総数は約400人。成人・小児の水頭症や脳脊髄液疾患の臨床・研究をめぐる最新知見について、特別講演のほか各種タスクフォース・セッション、若手研究者セッション、一般セッションを含めて計249題の発表が行われ、会場内は議論の熱

気に包まれた。

発表の中から、脳脊髄液の生理を再考し来場者の注目を集めた東海大学名誉教授・佐藤修先生による招待講演を含め、日本の先生方による4演題を紹介する。今号ではそのほか、緊密な地域医療連携の中でiNPH診療に取り組む熊本・菊池中央病院の取り組みを紹介する。